

6月議会

1 項目目は教育現場の「人づくり」について

「まちづくり」は「人づくり」と言われています。まちを構成する「地域」「学校」「行政」の視点から、本市の「人づくり」について質問をさせていただきます。

- (1) 笠岡市では現在、学校規模適正化の作業が教育員会主導で進んでいる中で、市内の県立高校の再編も本市の大きな課題となっていると認識していますが、市の認識と今後の対応をお尋ねします。
- (2) 県立高校の再編について、県立だからといって県の動向に合わせるのではなく、市としての独自の教育方針の中で高校も位置づけて、小中高一貫を目指した取組が必要と考えますが、市の考え方をお尋ねします。
- (3) 小中学校の学校規模適正化が進んでいますが、素案に対してのパブリックコメントを募集していましたが、パブリックコメントを生かして修正した点はあったのか、お尋ねします。
- (4) 今後、小中学校が統廃合されると、地域の公民館やまちづくり協議会との連携が一層重要になってくると考えられますが、今後の地域連携についてお尋ねします。

真庭市長と笠岡市長が再編が決まって県に要請文を渡して、その後のインタビューで市長が「**発展的統合で、生徒に選ばれる学校を作ってくださいとお願いしました。**」とおっしゃっていましたが。それでいいんですか？地域のことがわからない県の担当者に任せて本当に笠岡に生徒に選ばれる高校ができているのかお尋ねします。

今回、統合の対象にならなかった**高梁市、市内に県立高校が2校**あります。何がそうなったか、やはり行政が本気で県立高校を残すためにいろいろな取り組みをされています。聞くとところによると**高校魅力化の予算は約1千万**。

真庭市は**2億円の基金**を積んで、令和7年度から独自の取組を進めています。落合高校と久世高校の統合で新しい学校づくりが行われ、昨年初めての卒業生を出しています。令和**3年から5年までの3か年で文部省のマイスタースクール事業の認定**を受けて新しい特徴ある科目を作っています。そういう取組のさなかに、これから成果が出だす中での再編。どことも**行政が予算付けも含めてかなりのバックアップ**をしている中で再編なんです。笠岡の現状はどうでしょう。

Q 笠岡市はこれまでに高校魅力化について行政としてどのようなサポートをして来られてのですか？お尋ねします。

これまでに短時間ではありますが、**3校の高校でのヒアリング**もさせていただきました。その中でも、市役所からもいろいろなオファーは来るけど、それぞれの課がばらばらに言ってきたりする。**Q 笠岡市役所の高校魅力化の担当部署を作っていただき、窓口一本化をしてほしい**という声も上がっていました。このあたりもどうお考えですか？

Q 最低限笠岡市役所に高校魅力化の担当ぐらひは配置することが必要だとの認識になりませんか？お尋ねします。

Q 教育長は高校の再編プロジェクトチームに所属されていますが、その初会合やその後6月7日に開催された新しい**高校へのワークショップ等に参加された感想をお聞かせください。**

県は初めての取り組みでと何回も言われていましたが、参加したメンバーからは、てんでに言った意見がどう活かされるのか疑問の声もありました。笠岡市を知らない県の担当者がどう地域の意のある人を集めることができるのか？もっと**Q 積極的にこの再編に市が関わる事が必要と考えます**がいかがお考えですか？

私の感想ですが、これまであまり意識はしてなかったんですが、井原市や矢掛

町では高校魅力化と合わせて、市や町としての「ひとづくり」をまず基本的な施策に挙げ、様々な取り組みを行う中で結果的に高校の魅力化につながっているという感じです。**それも教育長口癖の小中高の連携と地域の応援が子供たちの「やりたい」を応援する** 土壌を作り上げているという雰囲気を感じます。

この後に及んで高校を残せと言ってもなかなか難しいのは分かっていますが、**笠岡市として高校生の可能性を意識して、地域が求める高校、地域の資源を活かした新たなビジネスとしての科目づくり**、例えば干拓のアグリビジネスであったり、海を活かした海洋ビジネスだったり、**Q 他にない 30 年後に通用する学校を市民の英知を結集して作る意気込みが必要ではないかと考えます？市長のお考えをお聞きます。**

3、井木議員の質問とダブル部分ではありますが、**Q 中学校の再編について、南北に幅広い笠岡市については、北部、中心部、南部といった 3 ヶ所の配置は必要との認識ですが、いかがお考えですか。（通学距離からも特認校以外は 3 校必要）**

数の論理だけでなく、**地域の位置的なまちづくり等も考慮しての小中学校の配置は重要と考えます。** まちづくりの大きな方向性として市長部局のまちづくりと連携した形での取り組みが必要であるとかんがえます。それぞれの地域については人を増やすやり方が分からない。といった組織がほとんどではないかと思えます。
そういった **Q 地域の課題に対しての市のサポート** についてお尋ねします。

これまで地方創生で 10 年の取り組みを全国的に実施されています。 まちづくり協議会についてもかなり補助金を増額していましたが、何がこの 10 年で発展したのか。市民は行政がやってくれていると思っている。市は地域が主体的に取り組む問題としていたのでは、だれもこの 10 年それぞれ相手がやってくれるという他人事であったのではないかと思います。

そんな中で**将来的にこんなに減るから仕方ない。** 悪い言い方をすれば、市内に最終的に 3 校にするために中学校の 1 学年複数クラスにこだわる事で結果的にその数字にする。今後の地域連携のためにもトータルの地理的な問題、

まちづくりの活動、地域の産業的なことも考えての Q 中学校や高校の学びのフールドの確保は今後の人づくりに関連しても非常に重要な問題ではないかと考えますがいかがお考えですか。

新しい高校の再編についてある高校の先生とお話をさせていただきました。これからの時代に求められる教育を地域とともに作るという熱い思いを伺いました。このような先生のもとで育つ生徒の可能性を大いに感じたのですが、これまでの学びの常識を変える取組。学校で先生だけから学ぶことができる教科学習だけではなく、生徒が地域で実践しながら学ぶことができる学校を作ろうという取組なんです。

その点からも数の論理だけでなく、地域振興、まちづくりの攻めの手法からも一貫教育を主軸においたまちづくりを進める意味からも、Q この教育の問題を地域と共に考える話し合いのテーマとしてお互いにいい意味で意見交換をすることが必要ではないかと思います。地域がアクションを起こすきっかけとしても「仕方ない」ではなく「やってみよう」という市民意識を持てるような誘導も必要かと思いますがいかがでしょう。

4、地域の小学校と公民館の取り組みはしっかりリンクすることが必要と思います。

数の論理で、学校の統廃合が行われていますが、Q 今後移住も含めて子供が復活した時には変更の可能性はあるのかお尋ねします。

ある小学校の先生にお話をお伺いしました。地方創生が叫ばれていた 10 年前に地域で子供を増やす取組をしていた事があるが、やはり、地域だけでは、なかなか成果は出なかった。行政のサポートが大きいと思うのですが。

今後、地域でのまちづくり協議会での取り組みが新たに起きた場合にはどのようにその活動をサポートされるのか、いや、その地域だけのサポートは出来ないとおっしゃるのか。お伺いします。

教育長は、Q 小中学校の規模適正化については地域との関係性を一層強化するとおっしゃっていたと思いますが、今の一般的な学校の地域連携の現状についてお尋ねします。そして、統廃合になった場合にどのように強化するのかお尋ねします。

2 地域の「人づくり」について

- (1) 昨年の財政健全化から外れていたまちづくり協議会について、今後どう考えていますか。また、小規模多機能自治の推進等の考え方も市議時代から提案されていたようですが、方向性は出されないのかお尋ねします。
- (2) 地域によっては機能していないと言われているまちづくり協議会もあり、かねてから課題とされている地域担当職員や地域拠点の分散によるコストが年々高まっています。地域任せではなく行政としての方向づけが喫緊の課題と感じますが、市の考えをお尋ねします。

2、1、この項目については西山議員の質問にもダブルことでもあります。その中で、市長答弁は**地域差があるので市が仕組みを先行的に導入するのではなく、地域の意見を聞きながら**と言った内容ではなかったかとおもいます。

ことごとく、この手の質問については地域の意見を聞きながらと言われるケースが多いように感じます。Q この格差をいかに縮めるか。それこそ市長お得意のロードマップを作って対応する事が必要と考えますがいかがお考えですか。

Q 財政健全化に伴うまちづくり協議会の再編について令和7年度は実施しないのか？

3 職員の人づくりについて

教育・まちづくり・産業・福祉等多くの課題が山積し、行政職員に求められる役割は専門化している状況にあります。

しかし、今の人事には政策を感じません。分野によっては職員の中にスペシャリストを作る必要性を強く感じています。最低5年は同じ部署にいないと難しいと感じます。例えば、対話・広報・ITなどの専門的なスキルや意欲を持った職員は関係部署内で長期的に育成する仕組みづくりが必要ではないかと考えますが、市の見解をお尋ねします。

昨日も答弁の中で少子化に関して各部を超えて連携して取り組みますという回答もあったが、**担当を決めずに連携してが一番の曲者。**

私が一番気になったのは2点あります。都市計画課と農政水産課です。

笠岡駅の橋上化は今凍結されていますが、明確な担当、腰を据えた担当が居ないとなかなか計画が前に進まない。

農政水産課においては、**市長の重要公約の臭気関係の部署の部長も課長も変わる。そして、課長については毎年変わっている状況をどう見るか？**臭気担当も明確に位置付けて10年スパンぐらいで思い切ってノウハウと人脈を蓄積しないと成果は出ないのではないかと思います。

Q この点いかが思われますか？

それともう一点、このところ職員を地域であまり見かけない。という感じを持っています。「事件は会議室では起きない」と言われるドラマもありましたが、地域とのやり取りの中でしか、生まれないものがあると思います。まちづくり協議会の地域担当職員といういい仕組みがあるにもかかわらず機能していない現状の中で **Q 再度「地域に飛び出す公務員」という視点での取り組みの再考が必要と考えますがいかがでしょう。**

くしくも、**子供たちだけでなく行政職員も地域を学びのフィールドとして位置付ける**ことも必要だと強く思います。

4 「人づくり」は「まちづくり」について

(1) 笠岡市の重点施策の中に「人づくり」を位置づけて、人口減社会に対応する体制づくりと、それを構成する「人づくり」を市長部局の中で位置づけることで、地域連携や学校連携の新しい流れを作る必要性があるのではないかと考えますが、市の見解をお尋ねします。

(2) 課題をまとめてどんなコーディネーター人材が必要かを洗い出し、教育と地域をつなぐコーディネーター、まちづくり協議会を小規模多機能自治組織へと進めるための再編成を行うコーディネーターなど、外部人材を雇用し、課題に向かう新しい仕組みづくりを行うことが必要だと考えます。

財源については、これこそ「地域おこし協力隊」「集落支援員制度」を使うべきと考えますが、市の見解をお尋ねします。

4 項目目で言いたかったのは、「ひとづくり」は教育委員会まかせではなく、今後は地域の連携が一層必要な中で市長部局で予算や市の方向性も兼ねそなえた Q 振興計画の大きな柱とする必要がある の考えですがいかがでしょう。お尋ねします。

これまでの 学びの常識を変える取組。学校で先生だけから学ぶことができる教科学習だけではなく、生徒が地域で実践しながら学ぶことができる学校 を作ろうという取組なんです。

勿論、そのためには行政も地域も関りながらそんなフィールドを作っていけないと到底できません。高校側には再編という課題があり、地域側には担い手不足という課題があり、行政は持続可能な地域づくりのためにこれらをトータルに動かす仕組みを作る必要があります。

小中の規模適正化や高校再編をマイナスイメージでとらえるのではなく、新しいフェーズに突入し、これからの子供たちの未来を大人たちが考える契機になったと捉え、学校・地域・行政が自分事として考え新しい笠岡の人づくり のためにできることを積み上げていくことが必要だと思っています。

最後、笠岡市政策部企画政策課に高校魅力化の担当を設けることを確約していただければと思います。